

平成21年全国女性建築士連絡協議会プログラム(案)

「地域と共生する住環境づくり」
～建築における「環(WA)」を考える～

平成21年7月17日(金)

司会 永井 香織

[全国部会長(委員長)会議] 12:30～14:00 於:若里市民文化ホール

[開会式] 14:30～14:45

・主催挨拶 (社)日本建築士会連合会副会長 平吹 和之
・シンポジウムの趣旨および運営説明 (社)日本建築士会連合会女性委員長 定行まり子

[基調講演] 14:45～15:30

テーマ「環の住まい ～環境共生と地域の産業循環」(仮)

講師 吉田倬郎(工学院大学教授)

休憩 15:30～15:45

[パネルディスカッション] 15:45～17:45

テーマ「建築における「環(WA)」を考える ～建築における「環」と「産・管・学」のネットワーク」(仮)

コーディネーター 高木直樹(信州大学工学部建築学科教授)

パネリスト 吉田倬郎(工学院大学建築学科教授)

" " 市村良三(長野県小布施町長)

" " 石川利枝((有)ISHIKAWA地域文化企画室 代表取締役)

" " 出澤 潔(社団法人長野県建築士会 会長)

[懇親会] 19:00～20:30 於:ホテルメルパルク長野

平成21年7月18日(土)

[分科会] 9:10～11:25 於:長野市生涯学習センター

A分科会「循環型社会」 司会 久米えみ(長野)

B分科会「建築を取りまく制度と建築士会」 司会 西田真紀子(石川)

C分科会「健康住宅」 司会 河野 房子(広島)

D分科会「建築物の再生活用」 司会 塚原 孝子(佐賀)

E分科会「歴史的な建物とまちなみ」 司会 本間 恵美(北海道)

F分科会「子供と住環境」 司会 土田久美子(秋田)

G分科会「高齢社会」 司会 小野 全子(愛知)

H分科会「集まって住む」 司会 田井中恭子(滋賀)

会場修復 11:25～11:30

[全体会] 11:45～12:30

司会 永井 香織

・分科会報告(3分×8分科会) 各分科会司会者
・全体総評 連合会女性副委員長 平内 節子
・平成21年全国女性建築士連絡協議会アピール 連合会女性委員長 定行まり子
・閉会の辞

A 分科会プログラム (案)

■ テーマ 「循環型社会」

■ 司会 久米 えみ(長野県建築士会) アシスタント 丸山 理恵子(長野県建築士会)

■ コメンテーター

・高木 直樹 (長野県建築士会)

研究分野

環境工学 (都市・地域環境, 騒音解析, リモートセンシング)

環境工学 (音響・騒音解析)

環境工学 (熱環境, 光環境)

キーワード: リモートセンシング, 都市気象, アルベド, ヒートアイランド

現在の研究課題

都市域での住環境の把握

地方都市における気象調査及びクリマアトラスの作成

リモートセンシング技術による都市の土地被覆分類, 植生の分類に関する研究

持続可能なまちづくりの提案 他

A 分科会では、前日のパネルディスカッションのコメンテーターを勤められた高木教授の研究内容、及び大学での授業(都市・地域環境計測他)や学生の研究などを含めてお話を伺います。

「現在、都市部への人口の集中が進み、都市が抱える問題が顕在化している。大都市圏はもとより、地方都市においても様々な問題が出てきている。例えば中心市街の活性化という課題はほぼすべての都市において、大きな課題となっている。さらに、地球環境面から新しい都市環境像を探る試みが必要となってきている。」

—地球環境問題についての概略説明。次にまちづくりと環境問題について解説。ここではサステイナビリティ、地球環境問題と都市、コンパクトシティなどの言葉をキーワードに都市のあり方を考えていきます。

・吉田 比呂子 (京都府建築士会)

庵我小学校での出前講座「環境ストーリー森の成り立ち」—今年で第3回目になる地域実践活動のお話をお聞きします。

■ 分科会の主旨

現在の建築業界における「エコ」とは何か?循環型社会を目指すために、私たちは日々の仕事や建築士会の中で、今後どういったことを検討し、まちづくりや地域に発進・活動をしていけばいいのか? 前日の基調講演・パネルディスカッションの内容。そして高木教授の信州大学での研究報告。京都府女性部会の活動のお話をもとに、みなさんと「循環型社会」を目指すために、何ができるか? どういう連携をとることなのかを考えていきたいと思ひます。

■ 分科会の進め方

- | | |
|------------------------|-------------------|
| 1 進行説明 | 9:10~ 9:15 (5分) |
| 2 高木 直樹(長野県建築士会) | |
| 持続可能なまちづくりの提案と課題 質疑応答 | 9:15~ 9:55 (40分) |
| 3 コメンテーターによる活動報告及び質疑応答 | 9:55~10:10 (15分) |
| 4 意見交換 | 10:10~11:10 (60分) |
| 5 まとめと今後の課題 | 11:10~11:30 (20分) |

B分科会プログラム(案)

■テーマ 「建築を取りまく制度と建築士会」

■司会 西田真紀子（石川県建築士会） アシスタント 中川優子（石川県建築士会）

■コメンテーター

山中保教（日本建築士会連合会専務）

士会活動を取りまく最近の建築業界の制度改革についての状況の説明。

新しい建築士制度（建築士試験・構造設計・設備設計・定期講習・重要事項説明等）の内容についての解説及び改正の現状を報告。改革によって国民の信頼は回復できているのか？建築士は今から何を目指して行けば良いのか？など、私達が今後取り組むべき課題と将来像についてのコメントを頂く。

伊藤順子（三重県建築士会）

三重県建築士会女性委員長として東海北陸ブロック女性協議会の運営委員を務める。

平成20年度後期静岡会議では分科会を担当。又、平成21年度三重会議を開催するに当たり、「成人式」と位置づけた当会議を先輩及び新人会員の交流の場として盛大に開催。

歴史を尊重しながら自立するブロック協議会を開催する。建築士会東海北陸ブロック女性協議会の活動を通して三重県建築士会活動の活性化も図る活動事例を紹介する。

■分科会の主旨

{建築士の和（WA）を考える}

一日目には「環の住まいづくり」についての基調講演があり、続くパネディスカッションでは「建築における環（WA）を考えます。

B分科会では、連合会より私達の日常業務や士会活動を取りまく制度について最近の流れと状況を説明して頂き建築士会の今置かれている現状を把握します。

そんな中、東海北陸ブロック女性協議会の取り組みは「成人式」を行うなど新旧交流というテーマで盛大に開催し、青年協議会との共催の場合は、分科会を担当するなど活発に事業を行っています。又その成果を各県へ持ち帰り士会活動に役立てています。

その中心的役割を担った三重県建築士会女性部会長伊藤順子さんが報告を行います。

■分科会の進め方 9：10～11：30

1 進行説明および資料説明（5分）	9：10～ 9：15
2 連合会及び三重士会からのコメント（30分）	9：15～ 9：45
3 意見交換（45分）	9：45～11：00
4 質疑応答・問題提起（20分）	11：00～11：20
5 まとめ（10分）	11：20～11：30

C分科会プログラム (案)

■ テーマ 「健康住宅と素材」

■ 司会 河野 房子 (広島県建築士会) アシスタント 福馬 晶子 (広島県建築士会)

■ コメンテーター

下田 卓夫 (広島県建築士会)

「都市に木の住宅がたくさん建つ事は、都市に緑の森をつくることと同じである。このメッセージの中に、建築士としての役割や興味を感じ、十数年前から広島県産材の木を使って家を建てる事を森林組合や地域の林業家との協力のもと行なってきました。昨今では、国産材や地域材の消費要望の高まりや流通も身近になり入手可能になりましたが、乾燥や割れなどの品質について、まだ、様々な課題はありますが、当初の思いを今後も持続け、自然乾燥の無垢の木材を使った手刻みの住宅を建築してゆきたいと思っています。」
この下田氏の熱い思いを語っていただきます。

■ 分科会の主旨

健康住宅において、その住宅に使用する素材が健康住宅と言うメッセージにとって、もっとも重要な要素であることには違いない。しかし、そもそも、健康住宅って一体何だろうか？

最近よく耳にする「健康住宅」の素材は、F☆☆☆☆など建築基準で仕様認定された人工素材や天然の自然素材を使用する事で、住む人の体に対して負荷をかけないで、健康を守り持続してゆける健康素材の住宅とも言える。健康住宅とは、この様な素材を使用するだけで定義づけられているのであろうか？

健康住宅とは、人工や自然などの物質的健康素材だけでなく別の、心ち良かったり、感じたり、視覚など人の心により良く響き、影響するソフト的な健康を持ち合わせた住宅として、皆さんと「草屋根の建築」事例紹介をどうして共に考えていきたいと思ひます。

■ 分科会の進め方

- | | |
|------------------------|-------------------|
| 1 進行説明 | 9:10~ 9:15 (5分) |
| 2 コメンテーターによる活動報告及び質疑応答 | 9:15~10:00 (45分) |
| 3 意見交換 | 10:00~11:10 (70分) |
| 4 まとめと今後の課題 | 11:10~11:30 (20分) |

D 分科会プログラム

■テーマ 「建築物の再生活用」

■司会 塚原孝子（佐賀県建築士会）

■アシスタント 水城浩子（佐賀県建築士会）

■コメンテーター 川崎昭子（佐賀県建築士会）

私たち肥前浜宿まちづくりデザイン研究会（建築士の8名）は、現在、佐賀県鹿島市肥前浜宿の重要伝統的建造物群保存地区の修理・修景や、まちなみ環境整備計画の策定等にかかわっています。

建物の再利用、増改築では、建物の規模・用途に関係なく、既存建物の劣化状況と、現行法（建築基準法）に合う改修が可能であるかということや、又この町の建物や景観を生かして活気ある町がよみがえられるまちづくりをするにはどのような建物の改修が必要であるのかを考えながら活動を行っています。これらの一連の活動を報告いたします。

■分科会主旨

数年に亘る本取組を通し、建物の再利用、増改築では、建物の規模には関係なく既存建物の劣化状況と、現行法（建築基準法）に合う改修が可能であるかということが問題点になるかと思えます。

また、地元住民等のまちづくりの会や行政（市役所）とまちづくりデザイン会議（建築士8名）の取組状況や、参加者皆様の実践活動などの事例など聞きながら問題点や今後の課題について意見交換を進めて参りたいと思えます。

報告の再生活用された建築物は、港町（有明海）、在郷町、醸造町に点在する茅葺町家、土蔵造り、真壁造りの棧瓦葺き町家。工作物としては、石垣・石積み・洗い場など。景観物件は石造や庭園・樹木などを多数映像として紹介したいと思います。

■分科会の進め方

1. 進行説明	9：10～ 9：15	5分間
2. コメント発表（佐賀県建築士）	9：15～10：00	45分間
3. 意見交換	10：00～11：00	60分間
4. 分科会まとめ	11：00～11：30	30分間
・問題点の整理		
・今後の課題		

E分科会プログラム

■テーマ 「歴史的な建物とまちなみ」

■司会 本間恵美（北海道建築士会） アシスタント 早川陽子（北海道建築士会）

■ コメンテーター

八田慎蔵 氏（長野市松代町）

八田家は、真田家松代藩に仕える御用商人として栄え、現在300年の歴史があります。

八田家住宅の主屋は明治30年の建築、大土蔵は江戸後期のものです。他、土蔵、長土蔵、塀、表門も明治30年頃に建てられました。平成17年12月に国登録有形文化財に指定されています。14代目の御当主八田慎蔵氏より、歴史ある建物を守り継ぐための維持管理等についてお話いただきます。

松浦由希（北海道建築士会）

『歴史的な建物やまちなみを大切にしたい想い』は同じでも住民、民間、行政…と、視点や立場によってアプローチの仕方も様々です。小樽市の歴史的な建物やまちなみに対するいろいろな関わり方と、それぞれの取り組みや活動について事例をご紹介します。

■ 分科会の主旨

歴史的な建物やまちなみの保存活動には、継続と各人への意識付けが大きな課題となっていると思われます。焼失や取り壊しなどの報道も相次ぎ、保存、保護の難しさも浮き彫りにされています。本日発表して頂く事例を通して、文化財保存として国や地方行政との連携や、市民活動に繋がる意識付けなど、保存活動の意義や問題をお集まり頂いた方々と意見交換し、これからの保存のあり方を共に考えたいと思います。

■ 分科会の進め方

1 進行説明	10分	9:10~9:20
2 コメンテーターによる活動報告（20分×2士会）		
八田慎蔵 氏（長野市松代町）	20分	9:20~9:40
松浦由希（北海道建築士会）	20分	9:40~10:00
3 参加者の活動報告等意見交換	80分	10:00~11:20
4 まとめ	10分	11:20~11:30

F分科会プログラム

■ テーマ 「子供と住環境」

■ 司会 土田久美子 (秋田県建築士会)

■ アシスタント 今井 廣子 (秋田県建築士会)

■ コメンテーター

1. 吉田紀子・鈴木奈津子 (福島県建築士会)

「子供と歩く歴史の街～街並みウォーク」

会津という歴史ある街並みを子供とウォーキングすることにより、普段何気なく歩いていた通りに面白い建物や不思議な建物に感動したり、商店街のおじさんやおばさんに声をかけられる幸せを体験した活動を報告します。

2. 末木 実 (長野県建築士会)

「子供の安全を考える～遊具施設の安全検証」

子供対象の室内アスレチック施設でのデモンストレーションを実施し、オープン前に遊具の安全検証を行った活動を遊具施設の現状、問題点をはじめとし、子供目線を通して大人が気が付くことがあるということ等を報告します。

■ 分科会主旨

次世代を担う子供を産み育てる環境を整えるのは私達大人の責任であると考えます。安全で安心して生活できる建築物を作ること、成長を促す遊具、街並みをはじめ大人達の係わりをいかに構築していくか、各活動を通じ探っていきます。

■ 分科会の進め方

- | | |
|------------------|-------------------|
| 1 進行説明 | 9:10～9:15 (5分) |
| 2 コメンテーターによる活動報告 | |
| ・福島県建築士会 | 9:15～9:35 (20分) |
| ・長野県建築士会 | 9:35～9:55 (20分) |
| 3 意見交換(質疑含む) | 10:00～11:10 (70分) |
| 4 分科会まとめ | 11:10～11:30 (20分) |

G分科会プログラム

■テーマ 「高齢社会」

■司会 小野 全子 (愛知建築士会) アシスタント 内藤 恵子 (愛知建築士会)

■コメンテーター

小池 和子 (東京建築士会)

宇井いずみ (東京建築士会)

東京建築士会では、昨年開催されましたミニシンポジウム「はつらつと住まう」の報告を中心に、高齢社会における活動の取り組みについてお話していただきます。ミニシンポジウム開催前にお元気でご活躍の12名の方々を訪問、ヒアリング調査を実施後、その中の建築関係の2名を講師にお迎えして、このミニシンポジウムは開催されました。

中山裕里香 (岡山県建築士会)

伊藤 洋子 (岡山県建築士会)

岡山県建築士会では、熟年セミナーと題し、熟年の方を対象に、興味のあるテーマを掲げ、4回、セミナーを開催されました。このセミナーの報告を中心に、お話していただきます。

■ 分科会の主旨

高齢社会から超高齢社会に向かいつつある今、これから、元気で過ごしていくための住まいはどうあるべきかをともに考えていきたいと思えます。本日の報告より、今回の事例以外でもお集まりいただいた各県の皆様からのご意見や、現状についてお話いただき、意見交換をしていただきます。これからの活動のお役に立てていただければと思います。

■ 分科会の進め方

1 進行説明 (10分)	9:10～9:20
2 コメンテーターによる活動報告 (2士会 各20分)	9:20～10:00
3 コメンテーターへの質疑応答及び意見交換 (80分)	10:00～11:20
4 まとめ (10分)	11:20～11:30

H分科会プログラム

■ テーマ 「集まって住む」 —コミュニティ再生の現場に学ぶ—

■ 司会 田井中 恭子（滋賀県建築士会） アシスタント 平井 利佐（滋賀県建築士会）

■ コメンテーター

1. 柴山直子 （滋賀県建築士会）

震災復興の共同建替事業・東尻池コートについて、復興支援メンバーとして現地調査から参加し、地権者や行政そして主役の住民をコーディネートしながら、今も自治生活会としなやかに係わり続けている事例報告をもとに、建築士のコミュニティ再構築とのかかわり方について議論を進めていきます。

2. 薄井温子 （東京建築士会）

東京建築士会女性委員会が継続的に開催している公開シンポジウムと見学会から武田五一設計の寄宿舎・求道学舎の集合住宅への再生について取り上げ、コーポラティブ方式で再生された事例を紹介し、歴史的建造物の集合住宅への活用の意義について議論します。

■ 分科会の主旨

震災により分断されたコミュニティの再構築と建物保存再生の中でのコミュニティの創出という二つの事例をもとに今年のサブテーマである～建築における環（w a）＝コミュニティの再生・再構築に私たち建築士はいかにかかわっていくべきか、住まい手との協働の関係を紡ぎ続ける意味を探っていきます。

■ 分科会の進め方

- | | |
|------------------|-------------------|
| 1 進行説明 | 9:10～ 9:15 (5分) |
| 2 コメンテーターによる活動報告 | |
| ・東尻池コート事例報告と質疑 | 9:15～9:45 (30分) |
| ・求道学舎の事例報告と質疑 | 9:45～10:15 (30分) |
| 3 意見交換 | 10:15～11:15 (60分) |
| 4 まとめと今後の課題 | 11:15～11:30 (15分) |